



春雨

一壽齋國貞画

十三編下

彌耕堂版

へ13
3016
26



遊仙

緑亭川柳作

仙

十三編上

甲寅

新鏡

升題曲五國出

へ13
3016
25

仙
子

遊



綠亭川柳作

甲寅

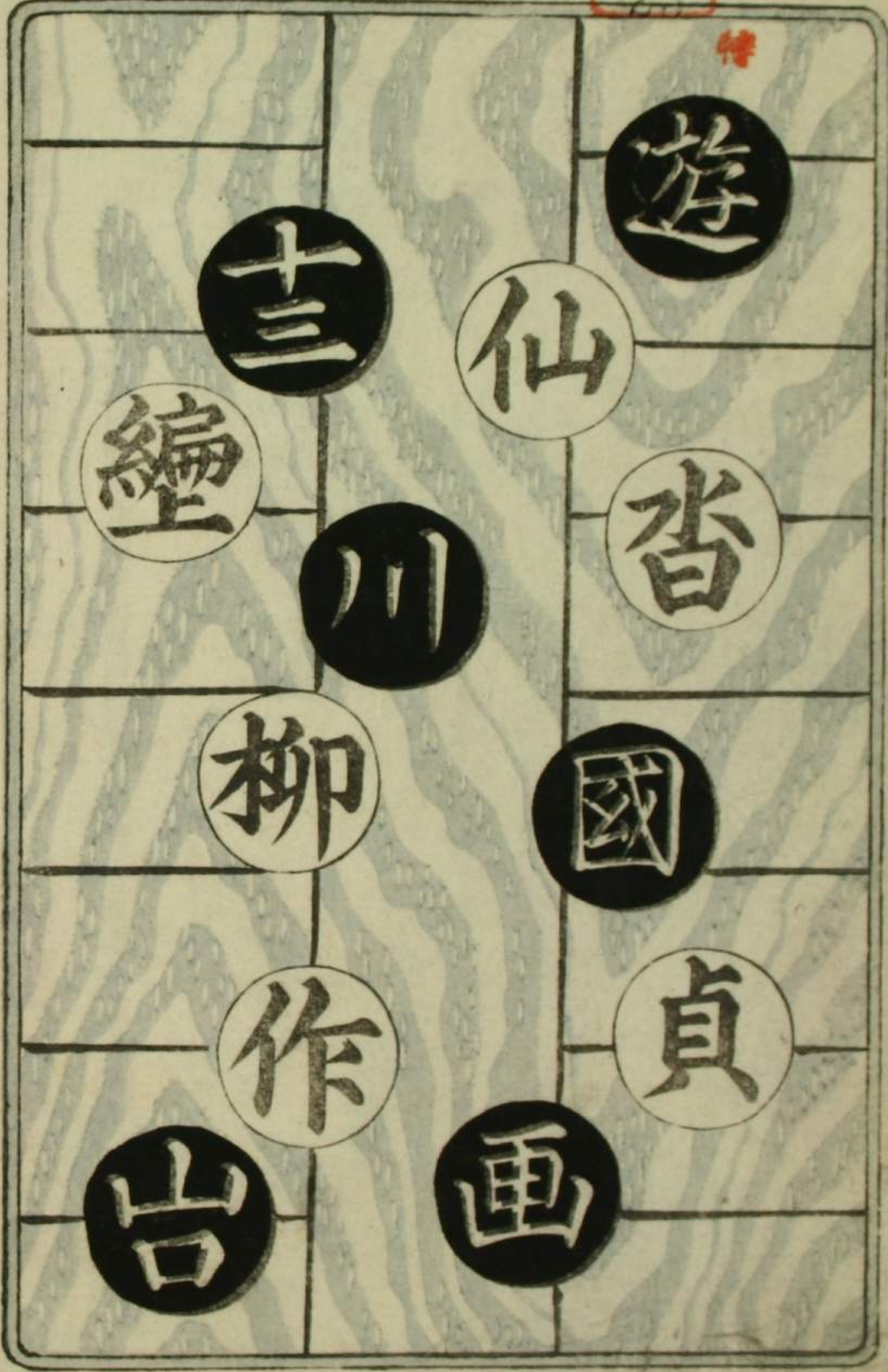
新撰

十三編上

升題曲五國色

へ13
3016
25

3016
25



八
四
四

叫の橋音無川み掛を耳無山み聾笑壽の社も
 提灯入名み似ぬても多き效ひさる春草紙
 巻都々旅驛のこのみあふ附て是を思ふ
 旅行するみ等々先筆の鹿島立み何處迄とのみ筋を取極水雲万里の
 道み画の寺社舊跡のどく讀の草臥の息を紙敷の二里塚み果
 故と悦び小書の名物の餅と同く旨味あり共一口やろし宿帳をみ
 丁附を違はれしを念の滞留みよの蠅が附て心を脇道み這入りて
 智恵の路金が貪くらり長途み困るてもあれど旅の耻の書捨と口拍子の
 早走り編敷の宿次み嬉く花の旅戻り無し夏み板元の古郷みち着御土産
 物とあるて祝はみふん

嘉永七甲寅年初春新板

綠亭川柳誌





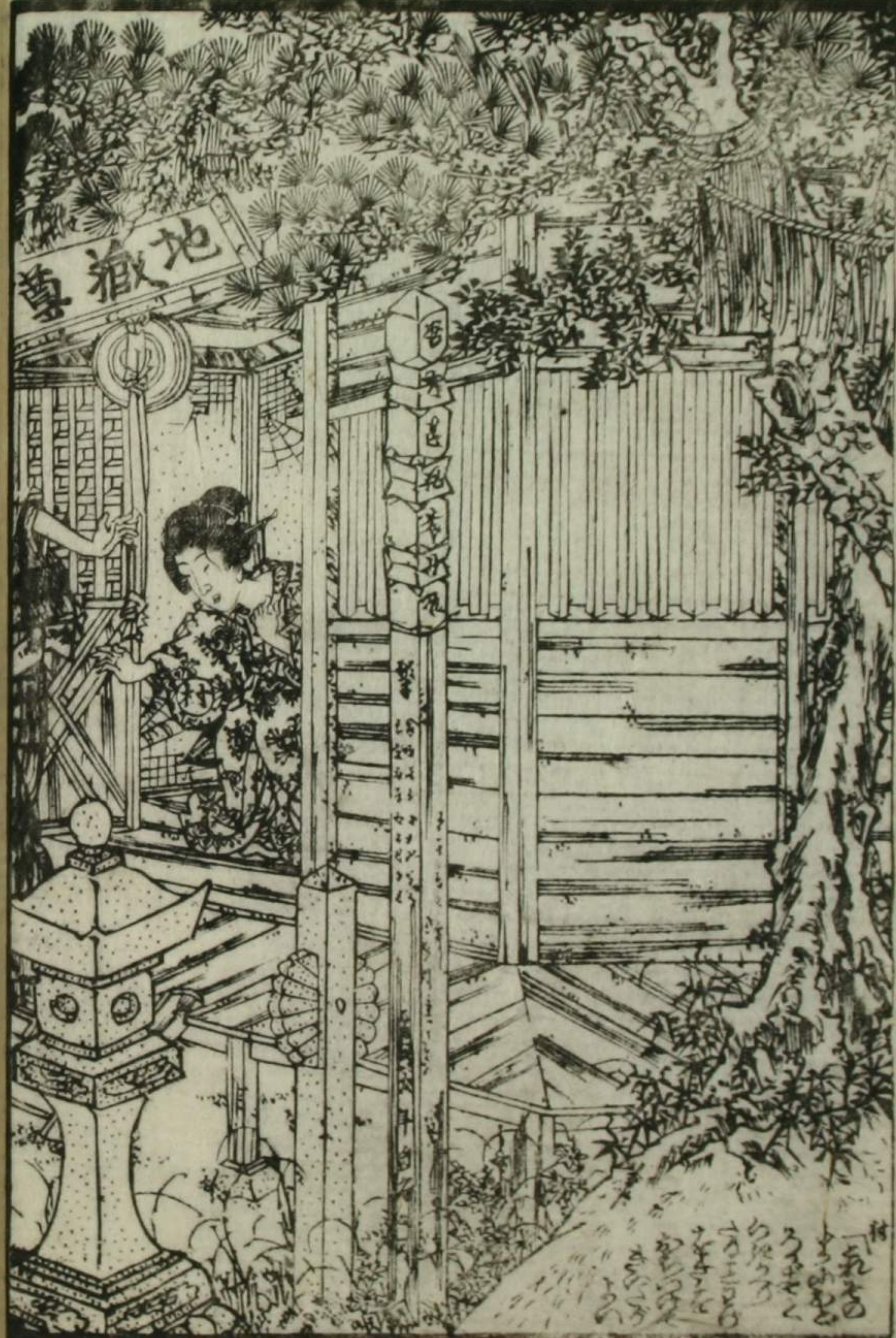
五十四

五



五十五

六





藏版新刊珍奇雜書略目録

遊仙水香春雨柳紙

十三編
十四編
十五編

綠亭川柳
陽齋豐國
畫作

田舎織糸線袂衣

四編
五編

同全
勇齋國芳
畫作

天録太平記

初ヨリ
追々

全
勇齋國芳
畫作

奇持百歌仙

同斷

全
立齋廣重
案圖

贈答百人一首

全
諸画家郡
筆案

狂句五百題

全二冊

五代目川柳著

東都書房

馬喰町二丁目

錦拵堂藏板



國貞画川柳作



春兩

一壽齋國貞画

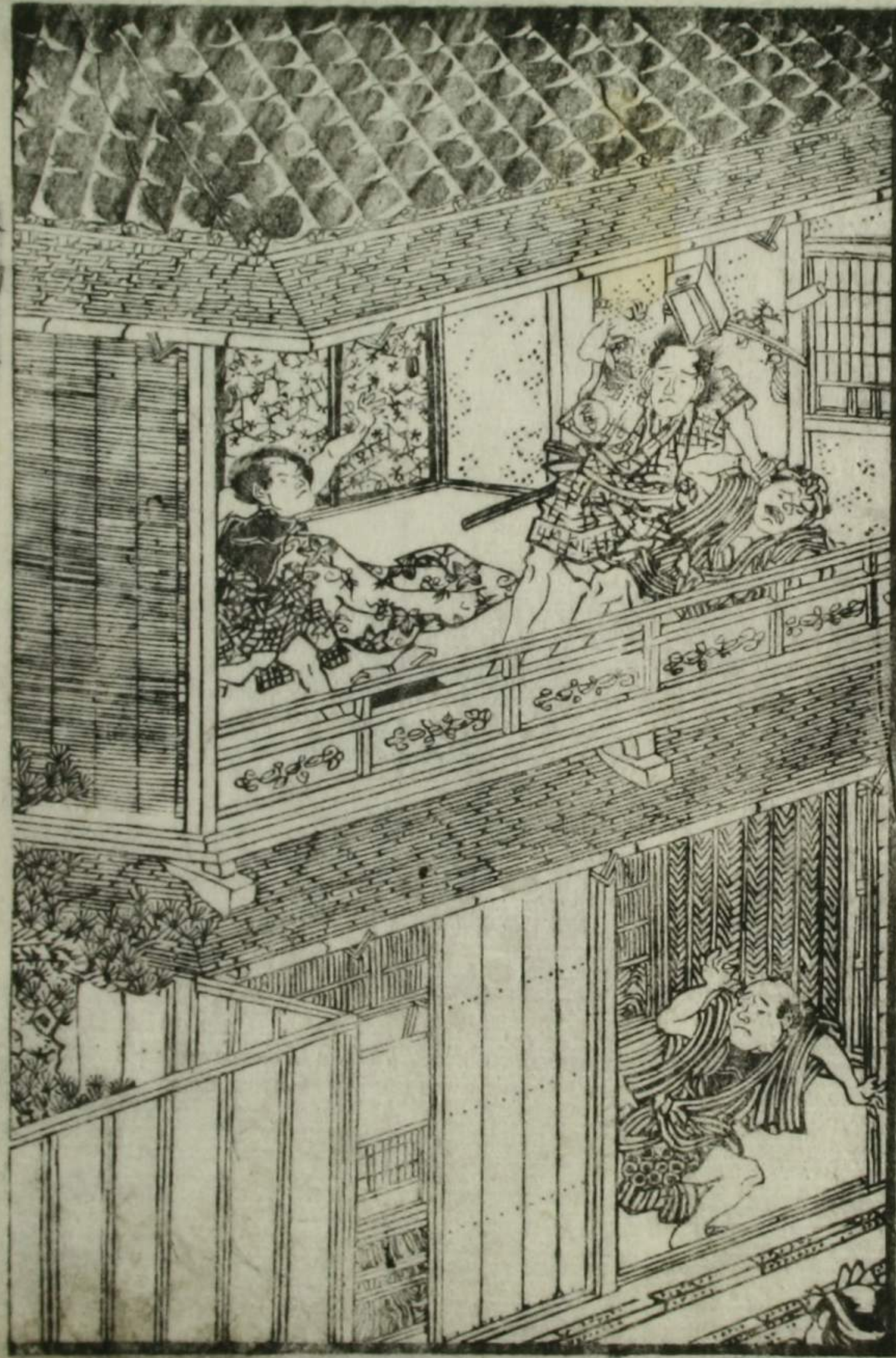


獨耕堂啟

十三編下



13
3016
26



ついでにこのめいめいといふのは此書に
下つていふ一節の事なり
大分ある所の入らぬやうな所
と云ふ三三の所に入りぬやう
くまなくいふやうな所
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり

▲此のめいめいといふのは此書に
下つていふ一節の事なり
大分ある所の入らぬやうな所
と云ふ三三の所に入りぬやう
くまなくいふやうな所
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり
まづと云ふ所の事なり
あつたやうな事なり



上十人
下十人
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん



あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん



あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん



あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん



あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん
あつた
せんせい
ちんちん



春風十三

十六

